



# 緑内障セミナー&視野検査体験会



## DATA

- 主な連携先・メンバー  
株式会社ケーラボ／堺市セカンドステージ応援団SS俱楽部
- 活動地域  
大阪府堺市
- 活動期間  
2019年度～継続中
- 活動資金  
堺市と関西大学との  
地域連携事業



## 活動の目的

- 1 緑内障などの視野疾患の早期発見を目的とするシステムの有用性を高める
- 2 堺市民が眼疾患に対する意識を高め、健康を維持できる環境になるよう支援する

## 連携にいたる経緯

堺市の市民活動コーナーの委託を受けている中間支援組織(大阪NPOセンター)から堺市セカンドステージ応援団 SS俱楽部をご紹介いただき、事業本格始動前のミニセミナーを開催した。



## 活動内容

2020年1月と2月に、本学堺キャンパスにて堺市民の高齢者を対象に「足元視力セミナー&体験会」を実施した。

セミナーでは、高齢者の転倒転落の危険性が要介護に至る主要因の1つであることや、自宅での転倒リスクの多い場所などの紹介と、特に下方視野の欠損状態や情報の収集能力、さらに歩行に関わる運動機能の維持が重要であることなどが講演の形で報告された。

また体験会では、現在開発中の小型視野計のモニターとして参加してもらうとともに、VR装置を使って足元の注意力の実験と、ロコモ度テストにより参加者自身の転倒転落のリスクがないかを実際に体験を通じて確認してもらった。

## 活動の成果

- 1 堺市の高齢者の方々に、視野計やVRを用いた歩行テストなどを通じて、足元視力の大切さや下半身の健康について情報提供を行った
- 2 開発している小型視野計の評価データを収集できた

## 今後の課題・目標

より大規模な実験体験会を開催し、多くの方に視野の重要性や転倒転落のリスクを低減する日常生活のヒントを提供する

### 教員紹介



■ システム理工学部 教授

**小谷 賢太郎**  
Kentaro Kotani

1996年ペンシルベニア州立大学で学位を取得後、関西大学に勤務。専門は生体情報工学。2005年にはハーバード大学客員研究員として医工連携研究を開始。最近では小型視野検査装置の開発や、「タブレット・スマートフォンなどを用いて在宅ワーク/在宅学習を行う際に実践したい7つの人間工学ヒント」を出版している。